



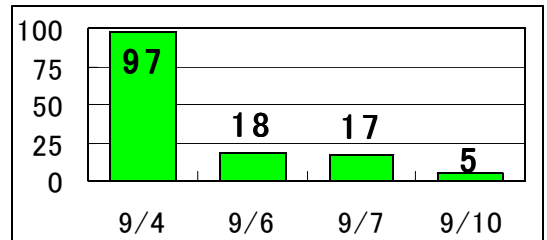
# 浦島伝説

## Time is money

「時は金なり」。時間はお金と同じように大切な価値があるので、無駄にはしてはいけないという意味です。また、「時間」に関する名言に、次のようなものもあります。◆あなたが持っている最大の資源は時間です。

- ◆「手に入れて、そして失うもの」、それがお金です。しかし、時間は「失うこと」しかできません。
- ◆「したい」と思うことは、今しましょう。何かをするのに遅すぎるということはありません。
- ◆「いつかしよう」と思っていることの「いつか」は決してやってくることはありません。

さて、前々号で下校時刻について触れました。右のグラフは、下校完了時刻に遅れた人の人数です。先生方も毎日呼びかけていますが、減少しているのは、生徒一人一人の意識の表れだと思います。昨日は、ノー部活デーのため、帰りの会終了後15分という時間を設定し、下校の音楽を流しました。その結果、5人になりました。「ゼロ」になる日は間近です。



### 時 間 ～「帰り道の法則」を知っていますか～

ずいぶん昔、鹿児島をレンタカーで旅したときの話です。知らない土地ゆえ、妻と地図をにらめっこしながらのドライブでした。特攻隊で知られる知覧を訪ねた際のことです。最寄りのインターから降りて車を走らせたのですが、なかなか目的地に着きません。細い田舎の道が続きます。道を間違えたのかなと思った矢先、ようやく町並みが見えてきました。半日、観光を楽しんで再び車に乗り込みました。

ところがです。行きはあれほど長く感じた道のりでしたが、インターにあつという間に着いてしまいました。妻と顔を合わせて「狐につままれたみたいだね」と言い合いました。間違いなく、行きも帰りも同じ道を通りました。なのに、帰りの方が半分以上短く感じられたのです。

よく、「楽しいことをしていると時間が経つのが早い」とか「授業が分からなくて1時間が長い」と言います。これと同じことだと気付きました。行きは初めての道のりなので「間違えないか」という不安を抱いて走ります。反対に、帰りは見覚えのある景色なので、安心してハンドルを握れます。この心理状態の違いが、行きと帰りの時間の長さを錯覚させたのです。このとき以来、わが家では行きよりも帰りの方が短く感じられることを「帰り道の法則」と呼ぶようになりました。

どんなに貧富の差があっても、大人も子どもも、男性も女性も、「時間だけはすべての人に平等である」と言われています。でも、この「帰り道の法則」をもってすると平等でないのかもしれない。人生に前向きな人とそうでない人。朗らかな人と不安を抱えている人。心の持ち様によって、過ぎ行く時の感じ方は変わります。

時間は、時計を見れば計ることができます。でも、本当の価値をこの目で見ることはできません。そう、目に見えないものに価値がある。

※「見えないものに価値がある」(志賀内泰弘)から引用

**【アメリカ体験記⑥】** 今回の研修で思ったこと。前回のオーストラリア体験記でも触れたが、英語をもっと勉強しておけばよかったということである。今回、ホームステイで「日本人は自分だけ」という状況で生活したため、だれにも頼ることはできない。頼れるのは、自分の英語力と表現力しかない。自分の言いたいことが通じないもどかしさ、高度な日本語のギャグが世界に通用しないむなしさを感じた。

でも、生徒にとっては、海外派遣研修は授業で学習した英語を活用できる絶好のチャンスである。今後、ぜひ多くの中学生に参加してもらいたい。特に、中学3年生は受験生だからと避けるのではなく、積極的に挑戦してほしい。英語に対する興味・関心だけでなく、まちがいなく技能も身につけ、それが受験にもいい影響を及ぼすだろう。でも、中学1年生はまだ英語が十分に話せないで、ちょっと厳しいかも…。

また、これまであまり意識したことがなかった「時間」について考えることができた。時間に追われることなく、ゆったりと流れる時間の心地よさを体験した。10時間以上の時差を体験し、時差ボケの大変さも少し味わった。アメリカへ行く時はとても長く感じたのに、帰りはあつという間に時間が過ぎてしまったことについては、出発前に読んだ「帰り道の法則」(※上の文章参照)を思い出した。行きの「不安」が、帰りは「自信」に変わっていたからである。それが「経験」という、何物にも代え難い宝物である。

「若者とは、未熟なのではなく、未経験なだけだ」。そう考えると、私もまだまだ若者である。もっともついろいろなことに挑戦していきたい。そう思えたことこそが、この研修の最大の収穫である。(完)